

<p>たくましく 心豊かな 地球市民</p> 	<p>瞳かがやく 附属松本中の子ら</p> <h1>すずかけの森</h1>	<p>令和8年6月8日(月) 信州大学教育学部 附属松本中学校 学校だよりNo.3</p> 
--	---------------------------------------	---

6月に入り、教育実習や中体連中信大会、そして今週には前期中間テスト・3年復習テスト②を控え、慌ただしい日々が続いています。そのような中でも、附属中には元気な生徒たちの声があふれています。

2日には、本校の伝統行事である「梅取り・菊づくり」を全校で行いました。当日は、教育実習の先生方も加わり、生徒たちは協力して梅取りや菊づくりに取り組みました。収穫した梅は、地域の方や保護者の皆様に販売し、多くの方に購入していただくことができました。

以下は、5日に行われた校長講話の内容をまとめたものです。牧野校長先生より、夢の実現のために必要なことについて、お話をいただきました。



常に一流たるをめざせ ～克己が育むたくましい心～ 牧野校長先生のお話より

始業式に「たくましく 心豊かな 地球市民 であれ」という話をしました。そして、前回は“たくましく”について詳しく話しました。“たくましき”には“身体のとくましき”と“心のとくましき”があり、“心のとくましき”の中に、“夢をあきらめない心”があり、“夢をあきらめない心”のとくましきを育むには、「自主」と「克己」が大事であること。「自主」とは、自分の意思で判断し行動することだとお話しました。「克己」とは、弱い己に打ち克つこと。そして、「面白スイッチを入れる」と言うことが、夢につながっていくという話をしました。この話の続きを今日は進めていきます。

先生は、小学校の頃このようなことを思ったことがありました。友達がファミコン持っていていいな。また、中学校の頃にはこのようなことを思っていました。友達がロードマン乗っていていいな。ウォークマン持っていていいな。さらに、高校の頃はこのような思っていたことがありました。友達が原付バイクに乗っていていいな。けれど今は、ファミコンをもっていた友達をいいなとは思わない、ロードマンに乗っていた友達をいいなとは思わない、ウォークマンをもっていた友達をいいなとは思わない、原付バイクに乗っていた友達をいいなとは思っていません。

何を言いたいかという、と、「ファミコンを持っていていいなと思っていたけれど、ファミコンを持っている人がすごいわけではない。原付バイク持っていていいなと思っていたけれど、原付バイクに乗っている人がすごいわけではない」ということです。忘れてはいけないのは、いずれ大人になってできることを早めにやったり、持っていたりしても、その人がすごいわけではないということです。

では、どのような人がすごい人だと思いますか。みなさんの意見を聞きたいと思います。

- ・新しい発想を考える人(3年)
- ・めっちゃ努力してる人(2年)
- ・カッコいい人(3年)

人によってすごいと感じる人はさまざまですね。先生には、最近すごいなと思った人がいるので紹介します。皆さん、WBCを覚えていますか。日本は予選を順当に勝ち上がり、決勝トーナメントに進み、ベスト4をかけて、ベネズエラと対戦しました。しかし、5対8で負け、大会2連覇を逃しました。今年の3月のことです。私もそうでしたが、決勝まで勝ち進む侍ジャパンを期待していました。

さて、過去最低となるベスト8という結果に納得できないファンもいました。その中には、敗戦の責任を特定の選手一人に押し付け、心ない言葉を浴びせる人もいたようです。まず、伊藤大海選手です。伊藤選手は、制限時間内に投げるピッチクロック違反を取られ、リズムを崩し、2人の連打を許し、3人目に逆転3ランホームランを打たれてしまいました。伊藤選手を、SNS上で厳しく非難する人がいたようです。また、チームを率いた井端監督や、最後の代打で見逃し三振した近藤選手にも同様に厳しい声が向けられたといえます。

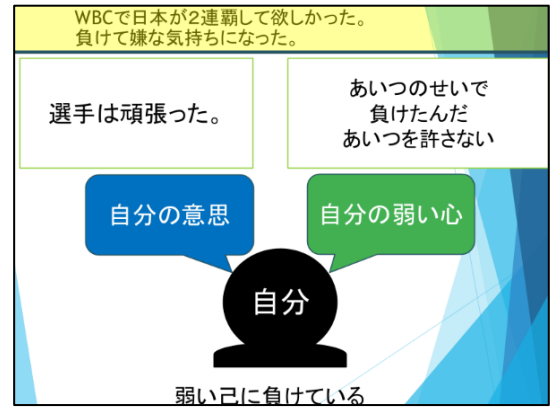
みなさんは、こういう声を寄せることをどう思いますか。

- ・見てる側なのに、なぜそんなことが言えるのかなと思う。(1年)
- ・実際、自分もその競技をやってみたら難しさがわかるんじゃないかと思う。(3年)
- ・結果だけでなく、そこまでの過程における努力を見ないといけないと思う。(2年)

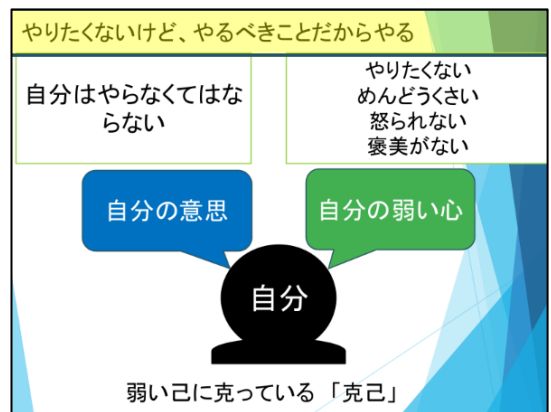
私は、このような考え方を予想していました。自分の意思としては、「選手はがんばった」とはわかっているけれど、「あいつのせいで負けたんだ」「あいつを許さない」という弱い心がいて、負けたという嫌な気持ちにより、自分の弱い心に支配されてしまった、弱い己に負けてしまったのだと思いました。

ちなみに、伊藤選手は報道陣から、誹謗中傷を浴びたことについて意見を求められたそうです。みなさんなら、答えますか。伊藤選手は答えたそうです。「自分のことは自分でしか守れないんで、こういう結果になった以上、誰かしらこういう立場になったと思うんで、それが自分でよかったと思っている。悔しい気持ちはもちろんある。まだまだできることはあるなど感じたので、そこに向けてやっていけたら」と答えたそうです。現在、伊藤選手は6勝3敗。防御率2.99で活躍しています。

みなさんはこのコメントどう思いますか。先生は、伊藤選手をすごいなと思いました。伊藤選手の気持ちをこう考えたのです。弱い心が言います。「俺だけのせいじゃないよ」「俺はついてないな」「もう逃げたい」日本の誰かわからない人から、たくさんバッシングを受けているのだから当然だと思います。しかし、自分の意思が言うのです。「自分が打たれたんだ」「自分はさらに努力すべきだ」「自分なら耐えられるから、自分でよかった」、この綱引きで、弱い己に克ち、先ほどのコメントと成績になっているわけです。

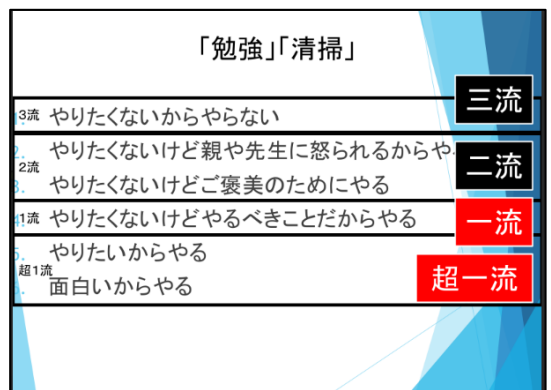


先生は、すごい人とは人よりお金を持っているとか、人より地位が高いとかそう言うことではなく、弱い己に打ち克てる人だと思います。とすれば、日常生活の中にすごい人はいます。前の話を思い出してください。「勉強」「清掃」を「やらない」と「やる」の間にある心の段階の話です。「やりたくないからやらない」「やりたくないけど、親や先生に怒られるからやる」「やりたくないけど、ご褒美のためにやる」「やりたくないけど、やるべきことだからやる」「やりたいからやる」「面白いからやる」という段階があって、前も言ったように、「やりたくないけど、やるべきことだからやる」という人は、弱い心に打ち克っているから、同じようにすごい人だと思います。



前回の講話では、4つのグループに分けましたが、「やりたくないからやらない」こういう人は三流だと思います。怒られたり、ご褒美があったりするからやっている人は二流だと思います。そして、自分の意思で弱い心に打ち克つ人が一流、それを前向きに考えてしまう人は超一流だと思います。

みなさんの生活ノートの表紙には、「常に、一流たるをめぐせ」という言葉が書かれています。常に弱い心に負けない自分を目指せと言っているんですね。そういう人が、夢をあきらめないたくましい心を持った人になれると私は思っています。ぜひ、常に一流たるを目指してください。



最後になりますが、梅取りお疲れさまでした。昨年度の売り上げが18万円でしたが、今年は収穫量が増えたので、昨年の売り上げを超えたようです。全校のみなさん、委員会のみなさん、ありがとうございました。

しかし、この梅取りも一流の人が支えてくれたのです。誰かわかりますか。事務室にいる学校庁務担当の小口先生です。小口先生は、数年前から梅の木が弱っていることを知って、ここ数年、暑い日も寒い日も、中梅の剪定や消毒に力を入れ続けてくれていました。みなさんがとりやすいようにと、草刈りもしてくれていました。そして、たくさんとれた様子を見て喜んでくれたのです。でも、小口先生は梅取りには参加しない。皆さんの笑顔を楽しんでいる。この学校には、皆さんを支えている一流の先生たちがいることを忘れないでください。